

中部地区の社会教育をつなぐ、ひろげる

わくわく中部



中部教育局社会教育担当だより平成31年1月7日発行

1月の主な行事

1月15日(火) 全州市町村社会教育担当者研修会(ゆるりん館)
1月21日(月)～2月27日(水)
平成30年度社会教育主事講習[B](まなびタウンとうはく)

受賞おめでとうございます

永年にわたり、公民館職員として職務に精励され地域社会の振興発展に貢献されました。

★全国公民館連合会 平成30年度永年勤続職員表彰★

湯梨浜町中央公民館羽合分館 地域活性化推進員 高橋悦子さん

東伯郡社会教育協議会派遣事業 ～実践報告～

1



第66回全国地域婦人団体研究大会 in ぎふに参加して

(東伯郡連合婦人会長 会見祐子さん)

10月4日に開かれた全国大会に集まった人を迎えたのは「織田信長と濃姫」と思われるような岐阜市民の歓迎ぶりだった。それほど官民一体信長一色であり、歴史の町に足を踏み入れた感動を覚えた。「清流の国岐阜」「日本の真中」「話そう・つながろう・伝えよう」スローガンで未来をつくる女性のつどいが始まった。

私は高齢社会での地域づくり、健康づくり「アンチエイジングで輝こう～産婦人科医師の視点から女性の健康寿命を考える～」という演題で宮崎千恵さんの講演を聞いた。講演内容は以下のとおり。

女性の病気では、何も無い時に検診を受けること、基礎体温をつけること、閉経と同時に女性ホルモンが激減することを、まず知ることが大切である。若い人には産み時、育て時を大切に、産める自分をキープすることを訴えたい。また、更年期障害でエストロゲンの働きが低下し、40代からの骨密度の低下による骨粗鬆症からの骨折、うつ病の発症は健康寿命を短くする。女性特有の甲状腺の悪性新生物、高脂血症、アルツハイマー病、関節リウマチ、卵巣のう腫等、男女の差が多いため、レディースデーのみの検診が必要である。女性の健康に関する疫学調査の必要がある。集団を対象とした指導や相談のみに依存するのではなく、県民一人一人に対し、きめ細やかな対応をする工夫が必要だ。生活習慣、寝たきり防止には栄養指導、運動指導は個別指導が不可欠である。

人間関係、ストレスケア、バランスの良い食事、休養、運動、禁煙、正しい健康診断、自分の体について知識をもつ。子宮癌・乳がんの検診、骨量の測定、更年期に対しホルモン補充、漢方・気功の取り入れ、ボディケアなど、常時女性の一生のライフサイクルを取り入れて生活することに心がけて欲しい。

次に「ライフサポートで仲間づくり」について岐阜大学名誉教授の小林月子さんの講演を聞く。地域の中で住民による助け合いサークルを立ち上げた。掃除、トイレ、お風呂、部屋の片付け、洗濯やアイロンがけ、墓参りなど、依頼者と一緒にするのが大切。困りごとがあれば、1時間単位話しながら行う。1単位千円で仲間を募集する組織を作った。

学びの多い大会に参加させていただいた。この学びを様々な場で生かしていきたい。

エストロゲンの働き

気分を明るくする。皮膚に張り、潤いを与え、骨を丈夫にするもの。いつまでも輝く女性であり続ける樹を育てる。

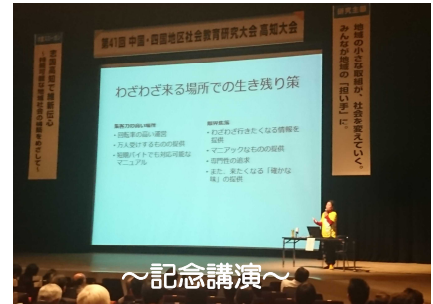


「西郷どん」のテーマ曲で開会



(北栄町社会教育委員 玉木純一さん)

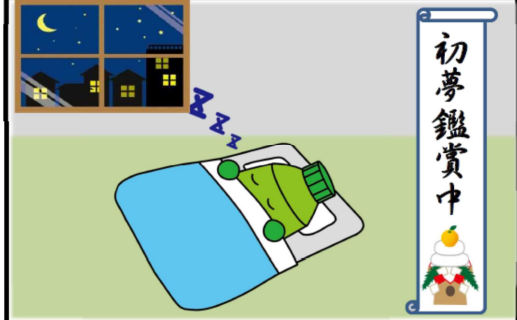
11月15日(木)から16日(金)の2日間、高知市を会場に「第41回中国・四国地区社会教育研究大会」が開催された。初日の全体会は、高知県民文化ホールを会場に、関係者450人が参加した。記念講演は、有限会社はたやま夢楽代表取締役社長の小松圭子氏による「生きたい場所がある。だから、ここに生業を創る」高知県の地鶏「土佐ジロー」を養鶏する安芸市畑山在住の人と結婚。「土佐ジロー」の養鶏や加工、販売。また、宿食堂「はたやま憩いの家」の運営を行っているが、現在に至るまでの苦労の数々が語られた。小松氏は「畑山で生きたいから、土佐ジローを飼育している」という思いで、ブログ、DM、ウェブサイトなどで情報発信を積極的に行いながら「土佐ジローを求めてくる宿づくり」に取り組んでいるとのこと。苦勞を感じさせない、バイタリティ溢れる講演であった。



～記念講演～

ちゅうぶくん

～初夢を楽しむ～



続いて、パネルディスカッションが行われ、登壇者からは、過疎、中山間地、限界集落が人・土地・村の空洞化や、心の過疎、誇りの空洞化、諦めを作り出している中で「誇りの再建と諦観からの脱却」が求められるとあった。そのために、「参加の場づくり」「公民館活動」「カネとその循環づくり」などで地域づくりを行うことが必要とのこと。



～パネルディスカッション～

2日目は分科会。4分科会のうち、第2分科会「社会教育委員」に参加。初めに、徳島県社会教育委員会議の岩佐氏の実践発表があり、「自ら出向き情報をキャッチして、自ら行動する」「情報の発信に徳島新聞を活用している」「自らの実践活動を通して、問題点を見つける」ことなどが大切と話された。

今年4月から社会教育委員となったが、自分自身が社会教育委員として、その役割や具体的に何ができるかなど、はっきりしていない。研修の機会として、県内の研修会や今回の研究大会にも参加させていただいた。学ばせていただいたことを今後に生かしていきたいと考えている。

【あしがき】

あけましておめでとうございます。新しい年がよりよき年になるよう心より祈念いたします。

さて、今号は東伯郡社会教育協議会の派遣事業の実践報告を掲載しました。本協議会では、郡内において、社会教育にかかわる研修に派遣したり、団体が主催する地域活性や青少年育成を目的とした活動に対して助成したりしています。お問合せは各町社会教育担当または、中部教育局の西村へお願いします。

中部教育局 社会教育担当 西村信彦

電話 0858-23-3253

ファクシミリ 0858-23-5203

電子メール nishimuran@pref.tottori.lg.jp